

最高裁において昭和33年乃至同39年に 確定した死刑判決一覧

永 田 憲 史

目 次

- 1 紹介方法及び分類番号の凡例
- 2 被殺者3名以上の事案
- 3 被殺者2名の事案
- 4 被殺者1名の事案
- 5 被殺者0名の事案

1 紹介方法及び分類番号の凡例

「死刑事件判決集（昭和33 34年度）」刑事裁判資料（刑資）203号（1973）,「死刑事件判決集（昭和35 36年度）」刑資197号（1972）及び「死刑事件判決集（昭和37 38 39 40年度）」刑資193号（1971）に掲載された死刑判決のうち、最高裁において確定した死刑判決を紹介することとしたい。昭和30年代に最高裁において確定した死刑判決のうち、前記の「死刑事件判決集」に登録されている昭和33年（1958年）乃至同39年（1964年）の間に確定したものはその全てを収集できたものの、昭和31年（1956年）及び同32年（1957年）に確定したものは収集できていない。この2年間に最高裁において確定した死刑判決の収集については、今後の課題としたい。

なお、【1c-30s-49】最判昭39年12月25日裁判集刑153号987頁は、判決訂正申立てが昭和39年中になされて同年中に棄却されていた場合、昭和30年代に判決が確定することとなるものの、そうでない場合、昭和40年代に入ってから判決が確定することとなる。当時、判決訂正申立てがなされることはほとんどなく、同申立てがなされていたとしても、昭和40年1月中に棄却されていた可能性が高い。もっとも、判決日が昭和30年代であり、判決確定が昭和30年代の可能性が残るため、本資料に収録した。

紹介方法及び分類番号の凡例は、これまでに紹介した一覧¹⁾と同様とした。被殺者

1) 拙稿「最高裁において昭和20年代中葉に確定した死刑判決一覧」関西大学法学ノ

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

数3名以上の事案、被殺者数2名、被殺者数1名、被殺者数0名の事案に分け、紹介することとした。被殺者数2名、被殺者数1名、被殺者数0名の事案については、死刑選択基準を考察する上で重要であると考えたため、犯行の目的別に分類した。

事案の概要は、確定した判決の判決文によった。審級間で量刑が異なった事件については、できる限り、審級ごとに判示された量刑事情について紹介することとした。

《分類番号の凡例》

【被殺者数-30s-同一被殺者数・同一類型中の判決順】

J：犯行当時少年²⁾

Li：無期懲役で服役後、仮出獄・仮釈放中の犯行

2 被殺者3名以上の事案

【7-30s-1】 最判昭38年4月30日裁判集刑147号113頁《第一審無期懲役》

就寝中の養祖父、父、妻、子3名、姪の上にガソリンを浴びせた上で放火し、居室を全焼させるとともに全員を焼死させた。用意周到な計画。知的障害、魯鈍級（知能指数50以上）。犯行当時24歳。自殺企図で負傷。第一審は、叔父の世話により結婚した女性が重度の知的障害を抱えていることに強い不満を感じるとともに、無断で水田を売る等した父を憎むようになる中で将来に対する希望を失って一家全滅を図ろうとしたものであって、被告人が両親の近親婚や家族の無思慮な生活態度の犠牲者であったこと、自殺しようとしたこと等を指摘し、無期懲役を言渡した。控訴審は、(a) 犯行態様が残虐であること、(b) 用意周到な計画の下で遂行されたこと、(c) 是非弁識能力があったこと、(d) 真に自殺をする意思があったか疑問であること等を指摘

↘ 論集65巻5号（2016）15頁以下、同「最高裁において昭和40年代に確定した死刑判決一覧」関西大学法学論集62巻3号（2012）28頁以下、同「最高裁において永山事件第一次上告審判決前の昭和50年代に確定した死刑判決一覧」関西大学法学論集64巻2号（2014）24頁以下、同「最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧」関西大学法学論集67巻1号（2017）288頁以下。

2) 犯行当時少年の事件については、拙著『死刑選択基準の研究』（関西大学出版部、2010）237頁以下の「資料2 最高裁において第二次世界大戦終戦後に犯行当時少年の被告人に対して確定した死刑判決一覧」の分類番号を括弧書きであわせて記載した。

し、死刑を言渡した。

【6-30s-1】 最判昭35年 6 月10日刑資197号40頁

被告人 2 名に死刑。旅館の食堂レジから金員を窃取しようとしたところ、旅館経営者一家が目覚めた気配を感じたため、一家 6 名を出刃包丁で刺殺、金品を強取。犯行隠蔽のため放火して計 8 棟を全焼させる。他に一方の被告人は傷害（他方の被告人の暴行については無罪）。窃盗の計画性。共犯、他方の被告人が一方の被告人よりもやや主導的地位。一方の被告人は懲役前科 3 犯、罰金前科 4 犯、他方の被告人は懲役前科 1 犯、罰金前科 1 犯。犯行当時いずれも 21 歳。

【4-30s-1J】 最判昭33年 4 月17日裁判集刊124号253頁（J4-3）

被告人 2 名に死刑。不和の関係にある一家に対する宿怨を晴らすとともに金品を強取して分配するため、被害者宅に侵入して 3 名を刀広で殴打して殺害、1 名を日本刀で刺殺。謀議、刀広及び日本刀等を準備する等の殺害の計画性。共犯、死刑となった一方の被告人が 3 名を殺害、死刑とならなかった相被告人が 1 名を殺害、死刑となった他方の被告人は殺害行為を直接担わず、相被告人は犯行当時少年で懲役 12 年。死刑となった他方の被告人は犯行当時 19 歳 7 か月。

【4-30s-2】 最判昭34年 4 月23日刑資203号289頁

借財の依頼に赴いた元家主宅で同夫妻並びにその養子の妻を所携の金槌で殴打し殺害、その子をモンベの細紐で絞締した上で金槌で殴打して殺害、金品を強取。他に強盗未遂。所携の金槌は強盗未遂事件のために準備したもので、元家主宅での強盗は計画せず。反省。

【4-30s-3】 最判昭34年 9 月18日刑資203号296頁

長兄の家の什器や衣類、その子が買い求めたラジオ等を持ち出して売り飛ばす等していたため、長兄一家と不仲であったところ、長兄の妻から皮肉を言われたように思い込み、所携の薪割斧を振るって同女及びその子 3 名を殺害、金品を強取。業務上横領による懲役前科（執行猶予）。

【4-30s-4】 最判昭35年 6 月21日刑資197号65頁

女性、その娘と息子、女中を相次いで昏倒させ、金品を強取、被害者らが焼死することを認容しながら、犯跡隠蔽のため、家屋に放火、同家屋を全焼させ、同女ら全員

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

を殺害、周辺の住宅の一部を焼損。犯行当時22歳。不遇な生育歴。

【4-30s-5Li】 最判昭35年 8月30日刑集14巻10号1418頁

被告人2名に死刑。麻薬売買取引のためと称して2名をフェリーに乗せ、睡眠剤で酩酊熟睡させ、海上に放り込んで殺害、金員を強取。自動車の貸主を所携の棒で強打し、所携の紡績紐で絞頸した上、財物を強取して廃坑に突き落として殺害、自動車の返還を免れる財産上不法の利益を得る。麻薬取引と称して連れ出した女性に睡眠剤を飲ませて昏睡状態とした上でショールを締め付けて絞殺、金員を強取。周到な殺害の計画。共犯、被告人らは従兄弟の関係、一方の被告人が他方の被告人を誘引、他方の被告人が殺害を実行。一方の被告人は21歳時に祖父母及び妹に対する殺人並びに父母弟妹に対する殺人未遂による無期懲役（恩赦により懲役20年に減軽）の前科、罰金前科1犯、他方の被告人には前科なし。犯行当時23歳前後（判決文に明確な記載なし）。遺族の打撃深刻甚大。

【4-30s-6】 最判昭35年11月1日刑資197号190頁《仙台地判昭59年7月11日判時1127号34頁により再審無罪（確定）》

一家を襲殺して金員を強取しようと、顔見知りの夫婦とその子2名を薪割りで切り付けて殺害するも、金員を発見できず強取は未遂。犯跡隠蔽のため、被害者宅に放火し、全焼させる。犯行当時24歳。

【4-30s-7】 最判昭36年3月30日刑集15巻3号688頁

母親の義母夫婦から妻に前科をばらすと罵られる等したため、青酸ナトリウム入りのジュースを飲ませて殺害。他人になりすますため、男性から就職斡旋に藉口して戸籍抄本等を入手した上、青酸ナトリウムを胃腸薬とともに飲ませて同人を殺害、ガソリンで焼損して死体損壊。窃盗で取調べを受けたことから再度他人になりすまそうと考へ、別の男性を日本手拭で絞殺、所携の七徳ナイフで陰茎等を切断、濃硫酸で死体損壊。強盗等による懲役前科2犯。控訴審の弁護人が「控訴の理由なし」、「死刑は止むを得ない」、「その行為は実に戦慄を覚ゆる」と控訴趣意書に記載。

【4-30s-8】 最判昭37年7月17日裁判集刑143号423頁《第一審無期懲役》

架空の取引を持ち掛けて自宅に招いた男性を真田打紐で絞殺、金員を強取、死体遺棄。同様に自宅に招いた別の男性を左官用掛矢で殴打して殺害、同人の朋輩を縄様のもの で絞殺、金品を強取、死体遺棄。同様に自宅に招いたさらに別の男性を縄で絞殺

したものの、金員を持参していなかったため金員強取は未遂。約10か月間の間の犯行。周到な殺害の計画。共犯、被告人が計画、殺害行為を担い、内縁の妻である補助的な役割の共犯者は無期懲役。遺族はいずれも厳重な処罰を希望。反省悔悟。第一審は、(1) 犯行後逮捕されるまでに12年余りが経過しており、社会に与えた影響をある程度減退させ、被告人らの悔悟と相まって被害感情や応報感情の幾分かを和らげ得たと考えられること、(2) 人心が改まったことと人権尊重の思想の進展が極めて速やかであったこと、(3) 公訴時効との関係を考慮すべきこと、(4) 被告人が老境に入りつつあること等を指摘して無期懲役を言渡した。控訴審は、(a) 社会に与えた衝撃が未だ減退しておらず、多数の遺族が今なお苦難の日々を送っていること、(b) 未だ公訴時効の完成しない事件について犯行後の時の経過を過大に評価してはならないこと、(c) 特に量刑上考慮しなければならないほど高齢ではないこと、(d) 遺族の精神的、物質的な打撃が極めて深刻であり、いずれも厳重な処罰を希望していること等を指摘し、死刑を言渡した。

【4-30s-9】 最判昭38年4月12日刑資193号329頁

被告人2名に死刑。小切手を強取しようと、元雇主を所携の出刃包丁等で刺殺、その妻をジャッキ等で強打した上、所携のステンレス包丁で刺突し、金品を強取、ネクタイで絞頸する等して殺害。犯行の発覚を防ぐため、その子2名を腰紐等で絞殺。具体的に謀議、被害者名の置き手紙や出刃包丁等を準備する周到な強盗の計画性。共犯、形影相伴う関係において相互に協力。他方の被告人は窃盗等による懲役前科（保護観察付執行猶予）、罰金前科。他方の被告人は警察官の不審尋問に対して自白。犯行当時23歳と25歳。

【3-30s-1】 最判昭33年1月16日刑資203号145頁

妻に対する仕打ちを晴らすため、事実上の養母を殺害しようと養母の汁茶碗と誤って妻の汁茶碗に農薬を入れてしまい、これを飲んだ妻を殺害。養母を殺害するため、飯茶碗の底に農薬を塗布して食させて既往症を増悪させる等して身体衰弱に陥らせ殺害。妻の妹の夫が浪費を戒め、被告人名義の通帳を管理する等したことに不満を募らせ、煮物の上に農薬を滴下して同人に食させて殺害。

【3-30s-2】 最判昭34年12月4日刑資203号329頁

ガラス戸を叩き破って農家に侵入、所携のハンマーで同家の妻を乱打して殺害、そ

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

の子2名を殴打し、同家に放火し全焼させて殺害、金員を強取、同女の夫を殺害しようとするも未遂。ハンマーを準備し、日本手拭で覆面をする強盗の計画性。

【3-30s-3】 最判昭34年12月25日刑資203号304頁

伯母に対する憎悪の念が爆発、伯母夫婦を所携の鉈で乱打して殺害、金員を強取。商談のため来訪した坑木商を鉈で乱打した上、出刃包丁で刺殺、金品を強取。坑木商に対する殺害の計画性。犯行当時22歳。

【3-30s-4】 最判昭35年3月24日刑資197号198頁

勤務する信用金庫の集金により保管中の金員を22回横領、横領額が大きくなって穴埋めできなくなったため、前途を悲観して最後に派手に遊ぼうと顧客夫婦及びその養子を所携の出刃包丁で殺害、財物を強取。被害者の預金を払戻して詐取。用意周到な殺害の計画性。犯行当時23歳。改悛の情。

【3-30s-5】 最判昭35年12月9日刑資197号32頁

外交員として雇用されていたクリーニング店主の財布から金銭を取り出したのを発見されて叱責されたため、同人をタオルで絞殺、同人の母を手拭で絞殺、金品を強取、同人の養女が帰宅するのを待ち受けて腕で絞扼して強姦し、手拭を首に巻いて緊縛した上、タオルで猿ぐつわを施して殺害。強盗等による懲役前科2犯（うち1回は執行猶予）。

【3-30s-6】 最判昭37年10月9日刑資193号67頁

被告人2名に死刑。一方の被告人の不倫相手の家に侵入、不倫相手の夫を棒で乱打した上、麻縄ロープで絞殺、同人の母を棒で殴打する等して殺害、同人の子の口及び鼻を綿で覆い、風呂敷で縛り、座布団を巻き、モンペの上衣で縛る等して殺害、不倫相手である同人の妻を棒で強打して傷害を負わせ、金品を強取。侵入先の家人が起き出してきたときには強殺しようとする殺害の計画性。共犯、発意着想の主体は一方の被告人、犯行現場における主要な行動は他方の被告人、互いに相共同して実行、両者の罪責の間に特に軽重なし。不倫相手だった女性は後に自殺。一方の被告人は窃盗等による懲役前科4犯、他方の被告人は前科なし。集落近隣への影響大。犯行当時24歳と25歳。ともに不遇な家庭環境。

【3-30s-7J】 最判昭38年2月8日刑資193号267頁（J3-2）

雇主の妻から金品を強取しようと考えていたところ、その夫が在宅していたため、所携の海軍士官用短剣で刺突等して同夫婦を殺害、別室から飛び出してきた雇主の母を同短剣で刺突して殺害、金品を強取。他に窃盗10件（うち確定判決前の7件について死刑とは別に懲役1年）。強盗について数日前からその機会を伺い、同短剣を準備する強盗の計画性、強殺は周章狼狽しての犯行。道路交通取締法違反による罰金前科。知能境界級。犯行当時19歳7か月。家庭環境不良。悔悟遅い。

【3-30s-8】 最判昭38年3月28日刑資193号292頁

被告人は女性。農薬中毒により苦悶する隙に乗じて所持金を強取しようと考え、亡夫の母に農薬入り飲料を飲ませ殺害、介抱中に物色するも金員発見できず。同じ目的で知人に農薬入り肉を食べさせ殺害、介抱中に財布を見付けるも付添人多数で強取できず。同じ目的で農薬入りもろみ漬けを別の行商人に食べさせ殺害、財布を見付けるもごく少額であったため強取できず。同じ目的で行商人に農薬入り鯛味噌を食べさせ一時危篤状態に陥らせるも殺害は未遂、同女の財布から金員を強取。3週間あまりの間の犯行。

【3-30s-9】 最判昭39年7月16日刑資193号445頁

被告人2名に死刑。売掛代金を費消して解雇された新聞販売店の集金済み金員を狙って店主、その義母、女中を所携の出刃包丁で刺殺、財物を強取。他に一方の被告人は窃盗2件。当初は強盗を綿密周到に共謀、犯行直前に強殺を共謀、出刃包丁を準備する殺害の計画性。共犯、一方の被告人が他方の被告人を強く誘因、犯行を促す。一方の被告人は意志薄弱、情緒不安定、爆発性等を主徴とする精神病質。他方の被告人は犯行当時22歳。市民の心理的衝撃深刻。一方の被告人は大学中退。

3 被殺者2名の事案

(a) 身代金目的

なし。

(b) 保険金目的

なし。

(c) その他の利欲目的

【2c-30s-1】 最判昭33年 6 月27日刑集12巻10号2332頁

友人宅で大家の男性及びその妻を大家宅にあった鉈で乱打して殺害、金員を強取。自己顕示性、気分易変性、粘着性、爆発性の異常性格者。酒精酩酊により抑制力に欠け激情行動に出る精神状態。犯行当時23歳。

【2c-30s-2】 最判昭34年 6 月 9 日刑資203号280頁

発見されれば居直り強盗をする意思で女性1名のみが在宅すると思われた家に窃盗をしようと侵入、同女に発見されたことから所携のフレンチナイフで脅迫して縛り上げ、金員を強取、犯行の発覚を恐れておしめで絞頸の上、同ナイフで刺殺。同女の1歳の子も在宅していたため、泣き騒がれないようタンスの引き出し内に押し込めて逃走、同児を窒息死させ殺害。他に窃盗4件。空き巣先で家人に発見された際に備えてフレンチナイフを用意、めばしい人家を物色する窃盗乃至強盗の計画性。強盗等による懲役前科5犯。

【2c-30s-3】 最判昭35年 3 月15日家月12巻6号159頁（J2-10）

住込先の雇主の娘に性交を迫って断られ、強姦しようとしたものの抵抗されたため、所携の手拭で絞殺。金品を窃取して逃走しようとしたものの、雇主の姪に発見されたため、鉈及び薪割りで同女を強打して殺害、金品を強取。計画性なし。窃盗による少年院送致の前歴。犯行当時18歳7か月。被害感情軽視できず。不幸な生育環境。盗癖。第一審の死刑判決に対して被告人は控訴せず、弁護人が控訴。

【2c-30s-4】 最判昭35年 3 月17日刑資197号207頁

強盗をしようと家屋に侵入したものの気付かれたと考え、鉈で女性とその子を殴打して殺害、同女の夫とその別の子を同様に殺害しようとするも未遂、犯跡隠蔽のために家屋に放火し全焼させる。他に強盗予備。物色、出刃包丁を準備する強盗の計画性。詐欺による懲役前科（執行猶予）。家族が被害者遺族に金品を贈って贖罪。深い悔悟と改悛の情。

【2c-30s-5】 最判昭35年 3 月31日刑資197号77頁

薬の行商人を両手で絞殺、金品を強取、死体遺棄。同女の娘に対し同女が交通事故に遭ったと虚言を弄して同女の貯金通帳等を持参させ、所携の電気コードで絞頸、強姦、殺害、財物を強取、死体遺棄。1か月間にわたり着々と準備、電気コード等を用

意する殺害の計画性。犯行後に平然と職場で勤務。悔悟。

【2c-30s-6】 最判昭35年4月8日刑資197号92頁

雑貨店に侵入して金員を強取、店主夫婦を所携の短刀で刺殺、さらに金員を強取。他に窃盗3件。強盗に入って被害者の出方によっては殺害する共謀、短刀等を準備する殺害の計画性。共犯、共犯者に男性の殺害を指示、被告人が女性の殺害を実行、共犯者は無期懲役と懲役5年以上8年以下。強盗等の懲役前科2犯。犯行当時25歳。

【2c-30s-7】 最判昭35年12月2日刑資197号50頁

強盗の目的で所携の登山用ナイフを60歳代の女性に突き付けたところ、大声を出されたため、同女を同ナイフで刺殺、その内縁の夫を所携の米軍用銃剣で刺殺するも、金品の強取失敗。米軍用銃剣、登山用ナイフを借り受ける等の強盗の計画性。共犯、被告人が実行において積極的、共犯者は無期懲役。窃盗による少年院送致の前歴。犯行当時21歳。

【2c-30s-8】 最判昭35年12月16日判時245号7頁

住込先の雇主を薪割斧で強打して殺害、同人の妻の頭部を鉄瓶で強打し裕布切端を口に押し込んで殺害、財物を強取。犯行の機会を窺う等の殺害の計画性。同女名義の預金を引き出したほか、被害者夫婦の生存を装う等の工作。恐喝未遂による保護処分、詐欺による試験観察（手柄付補導委託）の前歴、鉄道営業法違反による罰金前科。犯行当時20歳。

【2c-30s-9】 最判昭35年12月20日刑資197号100頁

伯母居住のアパートの別の住人宅に侵入して金員を強取しようと、所携の樫棒で女性を強打し、顔を見られたと感じたことから出刃包丁で刺突して殺害、金品を強取。同女の1歳の孫を布団で圧迫して殺害。暴行保護事件による審判不開始の前歴、道路交通法違反による罰金前科。犯行当時21歳。

【2c-30s-10】 最判昭35年12月23日刑資197号80頁

所携の鉞で資産家夫婦を強打して殺害、金品を強取。前科7犯。恵まれない家庭。

【2c-30s-11】 最判昭36年3月2日刑資197号375頁

空き巣に入った住居で女中に遭遇、金員を強取、強姦しようとするも生理中で断念、家人女性に遭遇して金員を強取、強姦しようとするも股間を足蹴にされたため、出刃

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

包丁で刺殺、金品を強取、犯行隠蔽のために女中を出刃包丁で刺殺、金品を強取。他に確定判決以前の強姦致傷・強盗、強盗致傷、強盗、窃盗、確定判決以後の強盗強姦致傷3件、強盗強姦未遂、強盗致傷2件、強盗未遂、傷害、窃盗18件、住居侵入。窃盗、強盗、詐欺、強盗未遂等による懲役前科4犯。女中の父を除く遺族が極刑を希望。中等度の精神病質。恵まれない家庭環境。深く悔悟。

【2c-30s-12】 最判昭36年7月19日刑集15巻7号1106頁《第一審懲役15年・無期懲役》

被告人2名に死刑。拳銃購入費用を得るため勤務先の銅板を留守番男性を殺害して強取しようとしたところ、同人の妻もいたため、同夫婦をハンマーで殴打して殺害、銅板を強取。留守番男性について周到な殺害の計画性。共犯、被告人が強殺を発意、拳銃入手に奔走、銅板の売先への交渉及び売却代金の支払、拳銃代金の支払、拳銃及び実包の受け取り及び保管を行った主導的地位にあった被告人と従属的地位にあったが殺害行為の多くを担当した被告人の間には格別の径庭なし。犯行当時21歳と25歳。第一審は、(1) 留守番男性の強殺の共謀は勤務先に侵入してから偶発的に発生し、(2) 後に控訴審で主導的地位にあるとされた被告人は留守番の妻の身体を押さえていたのみでハンマーで被害者夫婦を殴打していない等と認定し、同人に懲役15年、後に控訴審で従属的地位にあったとされた被告人に無期懲役を言渡した。控訴審は、(a) 留守番の強殺の共謀が事前に存在したこと、(b) 両被告人がハンマーで被害者夫婦をそれぞれ殴打した等と認定し、両被告人に死刑を言渡した。

【2c-30s-13】 最判昭36年9月8日刑資197号350頁

雇主夫婦を鉈で斬り付ける等して殺害、金品を強取。殺害の計画性。共犯、強盗を誘引したのは共犯者だが被告人が強殺を提案して執拗にその加担を迫り、積極的に計画推進、共犯者は無期懲役。護送途中に本件犯行の模様について事実を歪曲しようとする密かに書いたメモを共犯者に渡す。犯行当時21歳。悔悟なし。

【2c-30s-14】 最判昭36年10月13日刑資197号357頁

家人男性を所携の石等で殴打して殺害、同人の内縁の妻をマフラーで絞殺、金品を強取、死体遺棄。実行方法や行為の分担について共犯者と協議、軍手等を準備する等の周到な殺害の計画性。共犯、首謀者、被告人が共犯者を誘引し強取した金品の大半を得る、検察官が量刑不当で控訴するも共犯者は無期懲役確定。犯行後に別の共犯者に指示して多額の金品を奪取させる。窃盗による懲役前科（執行猶予）、本件は執行

猶予期間中の犯行。犯行当時25歳。反省。

【2c-30s-15】 最判昭37年2月16日刑資193号3頁

借財を申し込んだものの断られたため、所持の小型出刃包丁で知人の船長及びその子を刺突して金品を強取、殺害、犯跡隠蔽のために船舶に放火、焼損。借財を断られた場合には強取しようとする強盗の計画性。覚せい剤取締法違反による懲役前科（執行猶予）。感謝の措置なし。

【2c-30s-16】 最判昭37年5月8日刑資193号120頁

強盗目的で住居に侵入したところ、家人に懐中電灯で照らされたことに驚いて、所持のジャックナイフで刺殺、金品を強取し、同人の妻を同ナイフで刺殺。他に窃盗。ジャックナイフ等を準備する強盗の計画性。共犯、被告人が殺害行為を担い、共犯者は懲役15年。犯行当時24歳。遺族及び社会に与えた衝撃甚大。

【2c-30s-17】 最判昭38年6月27日刑資193号257頁

借財に応じなかったことから、高齢夫婦に睡眠薬を飲ませて昏睡させた上で、作業用前掛の紐と黒木綿三尺帯で同夫婦をそれぞれ絞殺、金品を強取、犯跡隠蔽のため、夫婦宅に放火して全焼させる。詐欺等による懲役前科2犯。真摯な反省なし。

【2c-30s-18】 最判昭38年10月1日刑資193号288頁

高校で金品を窃取、物色中に用務員と警備員に遭遇したため逮捕を免れるため所持のジャックナイフを振りかざして追い詰め、ビニール製電気コードで兩人を緊縛、金品を強取、犯行の発覚を免れるために同コードで兩人を絞殺。他に窃盗5件、窃盗未遂・住居侵入2件。窃盗の計画性あり、強盗の計画性については記載なし。共犯、兄である共犯者は被告人に引きずられたとして無期懲役。数回の非行歴、懲役前科2犯（うち1回は執行猶予、別の1回は本件犯行後の別の窃盗によるもの）。社会に衝撃。犯行当時22歳。恵まれない生育環境。

【2c-30s-19】 最判昭39年7月14日裁判集刑152号207頁

借財を断られた後、いったん帰宅して再訪し、青酸カリ入り清酒を夫に飲ませて殺害、気付いて大声を上げたその妻の口と鼻を左手で押さえて殺害、金品を強取。帰宅後に殺害を決意して、青酸カリ入り清酒を準備する等の殺害の計画性。被害者夫婦の自殺を偽装、アリバイ工作。生後間もなく脊髄性小児麻痺のために右腕の機能喪失。

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

被告人の障害を被害男性が揶揄。

(d) 性的目的

【2d-30s-1】 最判昭34年12月15日刑資203号333頁

通行中の女性の背後から飛び掛かって絞頸、同女が息を吹き返したため絞扼して仮死状態とするも暴れ出したため、絞頸して再度仮死状態として強姦、殺害。通行中の別の女性をほぼ同様の方法で強姦、腰紐等で頸部を緊縛して殺害。他に強盗強姦未遂、強盗・強姦、強盗・強姦未遂、強姦致傷・窃盗、強姦致傷12件、強姦8件、強姦未遂5件（別の強姦未遂1件について無罪）。約1年半の間の犯行、犯行態様は回を重ねるごとに巧妙悪質に。強姦未遂等の懲役前科3犯。

【2d-30s-2】 最判昭36年8月17日刑集15巻7号1244頁（J2-11）

通行中の女性を絞扼して強姦、逃げ出されたため同女を引き戻し絞扼して強姦、殺害。自己の通学する高校で生徒を強姦しようとしたところ騒がれたため絞殺、屍姦。偶発的犯行。新聞社、警察署、被害者宅に電話等で犯行を誇示。窃盗による保護観察の前歴、本件は保護観察中の犯行。社会不安。犯行当時18歳5か月。父は前科数犯、母は難聴、朝鮮籍で貧しい家庭。第一審判決後に懺悔。

(e) 愛憎ほか

【2e-30s-1】 最判昭36年2月2日刑資197号399頁

情交を重ねてきた接客婦が別の男性と結婚することとなって憎悪と嫉妬から、両名の止宿先でダイナマイトを使用して両名を殺害。ダイナマイトを準備する等周到な殺害の計画性。

【2e-30s-2】 最判昭36年3月24日刑資197号383頁

面倒をみてもらっていた左官職人の妻と不倫関係を持ったことが同人に露見し殴り掛かれたため、ミシン用木製丸椅子で襲いかかり同人を昏倒させたところ、同女が悲鳴を上げたため、同女を沈黙させようと切出包丁で刺殺、切出包丁で同人を刺殺。偶発的犯行。夫婦の子の面前での犯行。犯行当時24歳。謝罪。

【2e-30s-3】 最判昭37年10月18日刑資193号128頁

拘置所に収容された際の様子を種々質問されて憤慨、手鉞で女性を強打、同女の子

が泣き出したため手鉞で強打して殺害、財物を強取し、同女を手鉞で強打して止めを刺し殺害。他に窃盗4件。窃盗による懲役前科（執行猶予）、本件は執行猶予期間中の犯行。犯行当時24歳。改悛の情なし。

【2e-30s-4】 最判昭39年12月8日刑資193号468頁

元雇主から窃取した金員等の支払を同人から迫られて逆恨みし、所携の薪割用斧で雇主夫婦を滅多打ちにして殺害、金品を強取。薪割用斧等を準備する周到な殺害の計画性。窃盗による起訴猶予の前歴、窃盗による懲役前科。改悛の情。

(f) 拳銃奪取目的

【2f-30s-1J】 最判昭38年5月10日刑資193号302頁（J2-12）

警察官から拳銃と制服を強取して別の強盗に利用しようと、派出所で青酸カリ入り飲料を警察官に飲ませて昏睡状態にさせ、殺害、拳銃及び実砲並びに制服等を強取。強取した制服等に着替え、タクシーに乗車したところ、警察官殺害が運転手に露見したと思料するに至り、犯跡を隠蔽しようと拳銃を2発発射して同人を殺害。殺害の計画性。窃盗による不処分、暴行による保護観察の前歴。遺族の精神的打撃大きい。犯行当時19歳8か月。不遇な生育環境。偶発的犯行であると弁解、改悛遅い。

(g) 政治的目的

なし。

(x) その他

なし。

4 被殺者1名の事案

(a) 身代金目的

【1a-30s-1J】 最判昭35年6月9日刑資197号289頁（J1-5）

11歳女兒の母親が入院したと虚偽の事実を担任教諭に述べて小学校から誘拐するも、山林中で大声で助けを呼ばれたため、細紐及び同女のスカートを引き裂いて作った布切れで同女を絞殺。身代金を要求する準備しておいた手紙を同女の母親へ届けさせるも金員喝取失敗。他に窃盗8件、窃盗未遂、詐欺4件。誘拐及び恐喝の計画性。屍姦

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

を試みようとする。遺族感情極めて苛酷。社会的不安。改悛の情認め難い。犯行当時19歳1か月（被告人は生年月日が異なるとして犯行当時18歳であったと主張）。

(b) 保険金目的

なし。

(c) その他の利欲目的

【1c-30s-1】 最判昭33年1月16日刑資203号26頁

押し込み強盗の際に顔を見られたことから、手拭で絞殺、絞頸後に姦淫目的で下着を脱がせる。他に窃盗3件、強盗致傷。押し込み強盗は計画的。共犯、犯行のきっかけは訴外共犯者が作ったものの、犯行現場において積極的かつ大胆に行動、訴外共犯者と同等の責任を負うべき地位、相被告人たる共犯者は懲役6年。強盗等による懲役前科3犯。犯行当時24歳。遺族の感情を痛く傷付ける。

【1c-30s-2】 最判昭33年2月21日刑資203号127頁

祈祷師宅で祈祷中に金員を強要したところ、大声で助けを求められたため、所携の柳刃包丁で刺殺、金員を物色。柳刃包丁を準備する等の強盗の計画性。指紋を残さないよう手袋を使用、犯行後に賭博。窃盗、強盗殺人未遂による懲役前科5犯。犯行当時65歳。自発的に捜査官に自白。

【1c-30s-3】 最判昭33年3月11日刑資203号67頁

通りすがりの男性を呼び止めて手拳で殴打、騒がれそうになったため所携の檐薪で頭部を強打して後に死亡させるとともに金品を強取。強盗等による懲役前科。花見客を恐喝しようと物色して失敗した後の犯行。強取した腕時計を刑務所服役時代の知人を通じて売却。犯行当時23歳。

【1c-30s-4】 最判昭33年4月10日刑集12巻5号839頁

被告人2名に死刑。金塊取引に藉口して青酸カリを利用して殺害して金員を強取しようとして、青酸カリ入り寿司を食べさせたものの中毒症状が現れないため、ジュースに青酸カリを入れて飲ませて昏倒させ、所携の麻紐で絞殺、現金29万円を強取、死体遺棄。殺害方法と死体隠匿の具体策を協議し、死体を詰める行李等を準備する周到な殺害の計画性。共犯、相被告人は無期懲役、もともと別の者を誘引。いずれも強取した

金銭は遊興に費消。一方の被告人は詐欺等による懲役前科3犯、他方の被告人は窃盗による懲役前科3犯。被害者は法律上取引が禁止されていた金塊を売買しようと企図。一方の被告人は脳性麻痺により強度の身体障害、他方の被告人は不遇な家庭で生育。改悛の情なし。

【1c-30s-5】 最判昭33年4月10日刑集12巻5号857頁

高校に忍び込んで用務員を鉄棒で乱打、包丁で刺殺、金品を強取。他に窃盗3件。窃盗等の懲役前科3犯。仮出獄後に更生保護会の斡旋により就職したが激しい労働に耐えかね、更生保護会に立ち帰ったものの、職員からたしなめられたため、窃盗等を繰り返していた。

【1c-30s-6】 最判昭33年4月17日刑集12巻6号977頁《第一審無期懲役》

被告人2名に死刑。運送会社の当直を所携のバリで乱打した上、所携の出刃包丁で刺突する等して殺害、金品を強取。他に強盗致傷。共犯、極めて綿密な謀議、周到な計画。一方の被告人は犯行当時25歳。第一審は理由を示すことなく、被告人2名にいずれも無期懲役を言渡した。控訴審は、(a)極めて綿密な謀議を巡らし、周到な計画を立てていたこと、(b)当初より殺害する強烈な犯罪意思を決定していたこと、(c)殺害方法が残虐極まりないこと等を指摘して死刑を言渡した。

【1c-30s-7】 最判昭33年4月17日刑資203号58頁《第一審無期懲役》

飲食物を窃取しようと雑貨店に侵入したところ、女性店員がいたため、同女を絞頸して強姦した上、殺害、金品を強取。共犯、首謀者で指導的立場、共犯者は懲役15年と懲役7年。強盗、強制わいせつ等による懲役前科3犯、罰金前科1犯。強烈な被害感情。犯行当時23歳。第一審は特に理由を示さず無期懲役の判決を言渡した。控訴審は、(a)当初から計画的な強盗殺人行為を行う事例よりも動機においてやや酌量すべき点がないとは言えないものの、共犯者中の首謀者であって指導的立場にあったこと、姦淫の方法も惨忍極まるものであったこと、(b)強烈な被害感情があったこと、(c)前科から犯罪的傾向が強く、社会生活に復讐の見込みが甚だ薄いことを指摘し、死刑を言渡した。

【1c-30s-8】 最判昭33年6月13日刑資203号32頁

同乗させてもらった通りがかりの運転手を左腕で絞頸するも警音器を鳴らされたため、所携の石塊で頭部を殴打し、財物を強取、同人が身動きしなくなったため死亡し

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

たものと思って犯行の発覚を防ごうと蓮田に投げ込み、泥様液状物の吸引により窒息死させる。石塊を準備する殺害の計画性。窃盗による懲役前科（執行猶予）。犯行当時23歳。

【1c-30s-9】 最判昭33年 6月13日刑資203号41頁

父の衣類を無断で入質して叱られたため、質受けする金品を窃取するために別の質屋に侵入、騒がれたため、鉈で質屋夫婦を強打し、妻を殺害、夫に骨折等の傷害を負わせ、金品を強取。窃盗のために雨靴等を準備する等の計画性。指紋を拭く等、犯跡隠蔽に周到な注意。犯行当時21歳。

【1c-30s-10】 最判昭33年 8月5日刑資203号13頁

不動産代金の一部を支払うのみで登記を移して転売し利益を得ようとしたが失敗したため、不動産所有者を連れ出して絞殺、権利関係書類等を強取、死体遺棄。他に窃盗。犯行は計画的。共犯、相被告人たる共犯者は懲役10年、強殺には訴外共犯者も実行行為に関与。偽造公文書行使等による懲役前科（執行猶予）。相当裕福だったが、事業資金融通に失敗して多額の借財をするも、定職に就かず、無頼の徒を出入りさせ、強盗を企てたり、盗品を有償で譲渡したりしていた。妻子は被告人を信用。

【1c-30s-11】 最判昭33年12月18日刑資203号113頁《第一審無期懲役》

借財の申込に赴いた先で所携の腰紐で女性を絞頸、鰯切包丁で刺殺、金品を強取。他に窃盗3件、詐欺。借財の追加の申込を断られた場合には絞殺して金員を強取しようと思案する殺害の計画性。指紋を消す等の行動。窃盗による懲役前科（執行猶予）、横領で起訴猶予。遺族の被害感情痛烈だが寛大な判決も認容。母が早くに死去。反省悔悟浅薄。第一審は、① 家庭環境等が劣悪であったこと、② 強盗殺人後も窃盗等を行ったのは迫られる身であったことが影響しており、被告人の悪性の現れとのみ解することができないこと、③ 計画性が確実かつ周到なものとはいえないこと、④ 被害者の父が「この際、心より悔い罪を精算したいという気持を現わしているのならば裁判所でよろしくお考え願いたいと思います」と述べたこと、⑤ 反省悔悟は浅薄だが、改善を期することができなくないこと等を指摘して無期懲役を言渡した。控訴審は、(a) 犯罪の動機が遊興費欲しさであること、(b) 犯行前夜に強盗殺人をほとんど確定的に決意していたものであって計画的に敢行されたものであること、(c) 犯行が周到にして冷静に行われたこと、(d) 被告人の生い立ち等が決定的な程

度に斟酌されるべきではないこと、(e) 恩義ある被害者を殺害するのは情状が甚だ悪いこと、(f) 犯行後に遊興し、さらに窃盗等を繰り返していること、(g) 被告人が慰謝の措置を講じておらず、姉も焼香等をしているに留まること、(h) 被害者遺族が死刑を強いて望まないのは寛容な精神と死刑によって被害者が生き返る訳ではないからであって、単純に寛大な判決を望んでいると考えるのが適当でないこと、(i) 一般社会に大きな不安と衝撃を与えたこと等を指摘し、死刑を言渡した。

【1c-30s-12】 最判昭34年4月16日刑資203号230頁

店舗に侵入したところ、店主から誰何され、騒ぎ立てられるのを恐れて殺害を決意し、所携の鉈で同人を強打して殺害。店主の娘を姦淫、金品を強取。鉈を準備する強盗の計画性。2回にわたって同店舗への侵入に失敗した後の犯行。極度に困窮。精神病質人格。

【1c-30s-13】 最判昭34年4月16日刑資203号268頁《第一審無期懲役》

面識ある女性に借財を申し入れたが叶わず、居直って所携の肉切包丁で切り付け負傷させたところ、同女が借財に応じると述べて鞆を取り出したものの、同女が同包丁を突き付けられて助けを求めようとしたため、殺害を決意し、肉切包丁で刺殺、金品を強取。他に窃盗。肉切包丁を準備する強盗の計画性。被害者の夫は犯行現場で驚愕して脳出血で倒れ、死亡。犯行当時24歳。第一審は(1) 殺害の犯意はとっさに生じたものであること、(2) 証拠隠滅は特に責めるべき事情でないこと、(3) 自殺しようとして叶わず、交番に保護を申し出たこと、(4) 若年で刑事上の処分を受けたことがないこと、(5) 責任を痛感して後悔し謝罪の意を表していることなどを指摘し、無期懲役を言渡した。控訴審は、(a) 犯行の動機が大金を得たいというものであること、(b) 場合によっては殺害して金品を強取するという考えが脳裏に潜んでいたと認められること、(c) 殺害にかかる行為が残虐非道であること、(d) 殺害後に映画鑑賞や飲酒をしており、反省悔悟を示した形跡がないこと、(e) 交番に保護を求めた際に犯人性を否定しており、今後の措置に窮して一身の保護を求めるのが主眼で有利な上場ではないこと、(f) 被害者だけでなくその夫をも死亡するに至らしめたこと、(g) 社会の平穏を害し、人心を恐怖に陥れたこと等を指摘し、死刑を言渡した。

【1c-30s-14】 最判昭34年4月28日裁判集刑129号557頁

住居に侵入してタンスを物色中に家人女性に発見されたため、その場にあった日本

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

手拭で絞殺，金員を強取。凶器は携行しなかったものの，殺害することを予め考慮する殺害の計画性。窃盗による懲役前科3犯（うち1回は執行猶予）。

【1c-30s-15J】 最判昭34年6月16日刑資203号275頁（J1-4）

飲食店経営者の女性を所携の麻縄で絞頸した上，ビール瓶で強打して殺害，金品を強取。他に強盗殺人未遂。殺害方法を謀議し，麻縄等を準備する殺害の計画性。共犯，第一審の相被告人が被告人の2歳年上で奸智に長けた言動による影響は多少大きいものの，被告人がたやすくこれに呼応，第一審の相被告人は第一審で死刑を言渡され，控訴したもののこれを取下げた死刑確定，別の相被告人は懲役5年。窃盗等による少年院送致の前歴。犯行当時19歳9か月。

【1c-30s-16】 最判昭34年9月18日刑資203号236頁

高校在学時の同級生が母から多額の仕送りをもらおうと聞き，所携のネクタイで同人を絞殺，金品を強取。他に窃盗10件，詐欺2件。集金の使い込みにより失職。犯行当時21歳。

【1c-30s-17】 最判昭34年9月18日刑資203号252頁

睡眠剤入りジュースを会計係に飲ませて昏睡させ，81万円余を強取，昏睡状態の被害者を急遽借りたアパートに運び，青酸カリ入りの寿司を食べさせて殺害，急遽借りた戸建てに死体を移して遺棄。催眠剤の使用等を謀議，同剤を準備する殺害の計画性。共犯，命令的指導的，共犯者は不倫相手で懲役15年。文書偽造・同行使・詐欺により懲戒免職となり，次の就職先で会社の金員を横領して失職して困窮した上での犯行。精神病質人格。

【1c-30s-18】 最判昭35年2月5日刑資197号73頁

手製の拳銃でタクシー運転手に発砲，さらに発砲して止めを刺し，金品を強取。他に拳銃を用いた強盗殺人未遂，強盗4件，窃盗。数日前から協議，犯行当日に物色，実行方法等を予定する殺害の計画的犯行。共犯，主導的地位，共犯者は無期懲役と懲役15年。犯行当時22歳。母と早くに死別する不幸な境遇，改悛。

【1c-30s-19】 最判昭35年2月26日刑資197号147頁

特殊飲食店員と同棲する等して結婚の約束をしていた女性と結婚の意思がなくなり，受け取った多額の金員等の返還を請求されることを憂慮して同女を所携の手拭で絞殺，

金品を強取、金品の返還を免れる。綿密な殺害の計画。詐欺未遂による懲役前科（執行猶予）。犯行当時24歳。被害感情厳しい。悔悟認められず。

【1c-30s-20】 最判昭35年3月3日刑資197号230頁

天理教関係の保育園の経営を企図し、銀行員として高利で借り入れて分教会に低利で融通していたものの、利息の支払に困窮する等したため、会社社長に有利な預金を持ち掛けて呼び出し、千枚通しで刺突、ゴム紐等で絞頸して殺害、額面665万円の小切手及び現金を強取、死体遺棄。他に詐欺3件。殺害場所を見分、殺害方法を考究実演、死体処理方法を考慮し共犯者と共謀する等の周到綿密な殺害の計画性。共犯、主導的地位、共犯者は検察官が量刑不当で控訴するも共犯者は無期懲役確定。詐欺による懲役前科。改悛の情。

【1c-30s-21】 最判昭35年3月8日刑資197号16頁

借財の申込みを拒絶されたため、金品を強取しようと女性を絞頸、同女を強姦したところ、騒がれ逃げられそうになったため、所携のナイフで刺突した上、タオルで絞殺、財物を強取。勤務先からの集金代金の横領により逮捕勾留される前歴。犯行当時24歳。社会的不安絶大。

【1c-30s-22】 最判昭35年3月17日刑資197号241頁

山林所有者に立木の売買に関する契約と売買代金が領収済みである書類を作成させた上で鉋で殺害、死体遺棄、森林窃盗（包括一罪として評価される一部の立木伐採については無罪）。山林所有者の家出を偽装したため1年以上発覚せず。殺害の計画性。遺族の被害感情等閑に附すことができず。人心に衝撃。改悛の情なし。

【1c-30s-23】 最判昭35年6月28日刑資197号123頁

強殺に利用する目的で借りた部屋へ銀行員を集金名目で呼び出し、所携の手斧で一撃、魚切包丁で刺殺、金品を強取、死体遺棄。他に横領。犯行現場の部屋を借り受け、手斧等を用意し、万端の打ち合わせを行う等、綿密に計画準備。共犯、計画を考え付いたのは被告人、共犯者は殺害行為を担うも死体遺棄の途中で逃走、検察官が量刑不当で控訴するも共犯者は無期懲役確定。

【1c-30s-24】 最判昭35年7月15日刑資197号166頁

自動車購入代金の支払を免れるため、自動車販売会社外交員に領収証を作成させた

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

上で睡眠薬を服用させて昏睡状態に陥れ、ロープ等で絞殺、領収証等を強取、自動車購入代金の支払を免れ、死体遺棄。外交員が購入代金を受領したまま逃走したように偽装することを企図し、睡眠薬等を準備する殺害の計画性。共犯、共犯者は懲役10月執行猶予3年（強盗殺人について無罪）。窃盗による懲役前科（執行猶予）。

【1c-30s-25】 最判昭35年8月4日刑資197号85頁

銀行強盗の用に供しようとタクシー運転手を拳銃で射殺してタクシーを強取。他に拳銃及び同実包を携帯所持する銃砲刀剣類等所持取締令違反。本件は銀行強盗の準備行為。銀行強盗の逃走経路等を下見。数多くの非行歴。犯行当時20歳。不幸な家庭環境。反省悔悟不十分。

【1c-30s-26】 最判昭35年8月4日刑資197号137頁

質屋で財物を強取、犯行の発覚を防ぐため、ギターの負い紐で経営者を絞殺、さらに財物を強取。他に横領。窃盗等による懲役前科7犯、罰金前科3犯。

【1c-30s-27】 最判昭35年10月13日刑資197号58頁

農協で所携のかんぷちで職員を強打して失神させ、金品を強取、同人をかんぷちで殴打する等して殺害。発見された場合に備えてかんぷち等を準備する窃盗乃至強盗の計画性。共犯、首謀者、弟たる共犯者は懲役15年。窃盗による少年院送致の前歴。犯行当時23歳。

【1c-30s-28】 最判昭35年11月8日刑資197号8頁

睡眠薬を入れた飲料を飲ませて共犯者の伯母から現金を強取しようとしたものの、同女が飲料を飲まず失敗、共犯者が同女を連れ出した隙に物色したが金員を発見できず、帰ってきた同女に室内を物色したことを感付かれたと考え、所携の狩猟用ナイフで刺殺するも、金員の強取は未遂。他に窃盗。睡眠薬入り飲料、狩猟用ナイフ等を用意し、窃盗の手筈を謀議する等の綿密な窃盗の計画性。共犯、共犯者は懲役12年。狩猟用ナイフを公衆便所に隠匿、犯行後に共犯者の母親から借財して飲酒。強姦未遂による保護観察の前歴。犯行当時21歳。

【1c-30s-29】 最判昭35年12月15日刑資197号22頁

高齢男性を手で絞殺、その妻を絞殺しようとするも失敗し所携の鉈で頭部を強打して重傷を負わせ、金品を強取。他に窃盗。強盗の共謀、パンチを準備する強盗の計画

性。共犯，被告人が誘引，殺害を指示，殺害行為を担う等の主導的役割，共犯者は無期懲役。窃盗による懲役前科（執行猶予），本件は執行猶予期間中の犯行。犯行当時21歳。

【1c-30s-30】 最判昭36年2月21日裁判集刑137号191頁

タクシー運転手を所携の切出ナイフで刺殺，金員を強取，死体遺棄。切出ナイフ等を準備する強盗の計画性。保護観察の前歴，窃盗による懲役前科（執行猶予）。犯行当時22歳。自殺しようとするも悔悟したためではない。

【1c-30s-31】 最判昭36年6月6日刑資197号372頁

質屋で金品を強取しようと経営者を絞頸したところ抵抗されたため，所携のナイロンネッカチーフで絞殺，金品を強取。他に窃盗7件，詐欺未遂。強盗の計画性。窃盗による保護観察，窃盗による少年院送致の前歴，窃盗等による懲役前科。犯行当時22歳。遺族感情極めて強烈。反省悔悟なし。

【1c-30s-32】 最判昭36年6月9日刑資197号323頁

かつて入所していた更生保護施設の給料を強取しようと，同施設の守衛を所携のくり小刀で刺殺，金品を強取。他に同施設在寮生に対する強盗傷人，窃盗2件。窃盗による起訴猶予，同罪による保護観察の前歴，窃盗による懲役前科2犯。犯行当時25歳。被害者遺族に遺族補償支払われる。暗い家庭環境。改悛の情。

【1c-30s-33】 最判昭36年8月17日刑資197号366頁《第一審無期懲役》

漁協事務所で金品を強取しようとしたものの漁協関係者に抵抗されたため同人を所携のモンキーで殴打し，所携のタオルで絞殺，財物を強取。他に強盗，強盗未遂。強盗の計画性。勤務中，交通事故を起こし，その場から逃走して金銭に窮しての犯行。犯行当時24歳。第一審は殺意の点に触れることなく強盗傷害致死を認定し，無期懲役を言渡した。控訴審は，強盗殺人であると認定し，(a)凶悪な計画的犯行であって殺意を持って敢行されたこと，(b)殺害方法が残虐極まること，(c)暴虐的傾向が看取できること，(d)被害者が親しいの青年であって被告人と怨恨関係になかったこと，(e)動機について斟酌すべき情状が認められないこと等を指摘し，死刑を言渡した。

【1c-30s-34】 最判昭36年9月14日刑資197号344頁

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

強盗をしようと、住居に侵入し、所携の果物ナイフで女性を脅迫、金員を強取、強姦未遂、犯行発覚防止のためにタオルで絞殺。犯行発覚防止のために家人を殺害することを予定する周到な計画。猟奇殺人を装おうと死体をバラバラしようとしたが果たせず、同女の陰部に傷を付けて逃走、捜査当局に内容虚偽の電話。造船疑獄汚職事件における指揮権発動に憤激して吉田茂首相を殺害しようと首相公邸に侵入した殺人予備による少年院送致の前歴。犯行当時21歳。被害者の悲嘆。社会的不安絶大。悔悟なし。

【1c-30s-35】 最判昭36年10月31日刑資197号339頁

元勤務先で所携の登山用ナイフで宿直員を刺殺、別の宿直員も殺害しようとするも未遂。他に窃盗2件。共謀し、登山用ナイフ等を準備する殺害の計画性。共犯、主導的地位、共犯者を誘引、殺害行為の大半を担う、共犯者は自首して懲役15年。窃盗等による懲役前科（執行猶予）、本件は執行猶予期間中の犯行。犯行当時25歳。睡眠薬自殺を図る。

【1c-30s-36】 最判昭37年2月20日刑資193号147頁《第一審無期懲役》

ハイヤー運転手から金員を強取、犯行発覚を防ぐために所携の登山用ナイフで同人を刺殺。銀行強盗、路上強盗、押し込み強盗、自動車強盗を実行するもいずれも失敗した末の犯行。共謀、日本刀等を準備する強盗の計画性。共犯、被告人は見張りをしていたため殺害を直接担っていないものの、計画立案、共犯者を誘因、強盗を担い、指示・指揮・統御する等の主導的地位、共犯者は無期懲役と懲役15年。被害者遺族に極めて大きな悲しみ。恵まれない家庭環境。第一審は、(1)被害者の殺害をもともと計画していなかったこと、(2)被害者とともに自動車を乗り捨てる計画であったにもかかわらず、エンジン停止という不測の事態の発生により逃走計画に支障を来したことから殺害に及んだものであること、(3)恵まれない家庭環境であったこと等を指摘し、無期懲役を言渡した。控訴審は、(a)当初からの計画も凶悪なものであったこと、凶器等を携行したこと、明確な殺意に基づく残酷な殺害方法等に鑑みると、その犯情において当初から殺害を意図していた場合と異なるところがないこと、(b)被告人の罪状と責任が最も重いこと等を指摘して、死刑を言渡した。

【1c-30s-37】 最判昭37年4月6日刑資193号54頁《第一審無期懲役》

価値なき炭坑の鉱業権を高値で売却されそうになったことに憤懣の情を感じ、売主

を左腕で絞扼して仮死状態として川に投げ込み殺害、鉱業権移転に必要な書類等を強取。他に窃盗5件、私文書偽造、同行使、公正証書原本不実記載、同行使、外国人登録法違反。下見等、周到綿密な殺害の計画。共犯、被告人が誘因、計画、共犯者は無期懲役。犯行後、ピストルの入手を企てる。窃盗による保護観察の前歴、窃盗による懲役前科。犯行当時23歳。改悛の情なし。第一審は特に理由を示さず、無期懲役を言渡した。控訴審は、(a) 周到綿密な計画の下に敢行された悪質な犯行であること、(b) 行為が残忍であること、(c) 当初からの目的通り鉱業権を知人女性に移転したこと、(d) 被害者遺族への打撃が大きいこと、(e) 改悛の情が認められないこと、(f) 前科前歴があること等を指摘し、死刑を言渡した。

【1c-30s-38】 最判昭37年5月29日刑資193号111頁

席貸の接客婦を身請けするため、別の女性宅に侵入して同女を所携の手斧で殴打して殺害、金員を強取。殺害してでも金員を強取しようとする殺害の計画性。他に業務上横領2件、横領6件。被告人は村会議員、父は資産家。否認、反省なし。

【1c-30s-39】 最判昭37年6月1日刑資193号21頁

住居に侵入して家人を縛り上げる等して約4時間半にわたって家屋内を物色して金品を強取、犯行発覚を恐れて家人女性をタオルで絞殺、その夫を玄能で殴打して殺害しようとするも未遂。他に窃盗5件。強盗殺人未遂等による少年院送致の前歴、非現住建造物放火による懲役前科。ヒステリー性性格異常と診断され医療刑務所で処遇。性格異常。犯行当時24歳。不遇な家庭環境、幼時から脳膜炎等の病気を次々患う。

【1c-30s-40】 最判昭37年6月29日刑資193号74頁

木炭の買付けを装って被害者を連れ出して所携の杉の角棒で乱打、所携のハンカチで絞殺、金員を強取、死体遺棄。打ち合わせをする等の共謀、殺害の計画性。共犯、首謀者、指導的役割、強取した金員は山分け、共犯者は実行において重要な役割果たすも無期懲役。道路交通取締法違反による罰金前科。

【1-30s-41】 最判昭37年12月11日刑資193号14頁

高齢女性を所携のベティナイフで刺殺、金品を強取。ベティナイフを準備する殺害の計画性。他に強盗傷人、窃盗6件。窃盗等による懲役前科6犯。改悛の情なし。

【1-30s-42】 最判昭37年12月14日刑資193号39頁

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

住居に侵入したところ、家人らに発見され、金員を強取、家人らの両手足を縛ったものの、解かれてしまったため、顔を見られていたことから家人男性の殺害を決意し、コードで絞殺。その妻と子をガス中毒で殺害しようとガスを放出するも殺害は未遂。家人に発見されれば強取しようとする窃盗乃至強盗の計画性。強殺後に犯した窃盗等による懲役を第一審で言渡されて控訴後に保釈された後、強盗、強盗未遂、窃盗。犯行当時21歳。

【1c-30s-43】 最判昭38年1月25日刑資193号214頁

金融業者を殺害して融資金を強取しようと、電気コードで絞頸、角棒で殴打して殺害、金品を強取。殺害方法について共犯者と協議、予行演習、電気コードと死体を詰めるトランク等を準備する等の緻密な殺害の計画性。共犯、共犯者は懲役10年、同5年。犯行後2か月余り逃亡して遊興。多少の分裂気質。犯行当時24歳。良家の子弟、慶應義塾大学卒業。反省悔悟。

【1c-30s-44】 最判昭38年3月28日刑資193号246頁

借財又は詐取するために虚偽の事実を申し述べて近所の女性に金員を用意させた後、木槌で同女を強打した上、手拭で絞殺、金品を強取、死体遺棄。他に2項強盗傷人。強殺決意後に木槌を準備する殺害の計画性。強取した金員で競輪三昧。遺族に耐え難い苦悩。

【1c-30s-45】 最判昭38年4月23日刑資193号273頁

共犯者の元上司の妻を所携のビニール紐等で絞殺、金品を強取。他に窃盗20件、詐欺。共謀、綿密な協議、周到な殺害の計画。共犯、被告人が発案企画を行う首謀者、共犯者は無期懲役、懲役7年、懲役3年6月。詐欺による懲役前科1犯、罰金前科2犯、詐欺等で保釈中に逃亡2回、偽名を使用して誤認させた上での起訴猶予2回の前歴。警察に出頭。不遇な家庭環境。

【1c-30s-46】 最判昭38年5月14日刑資193号285頁

勤務先の事務員を腕で絞頸、鞘付短刀で刺突、木綿紐で絞殺、銀行から払戻された200万円を強取、死体遺棄。他に窃盗。共謀、詳細な打ち合わせ、用意周到な殺害の計画。共犯、被告人が共犯者を誘引、計画や指示等、主導的立場、共犯者は無期懲役。被害者は払戻した預金の持ち逃げを疑われる。少年院送致の前歴、窃盗等による懲役前科4犯。

【1c-30s-47】 最判昭39年 2月18日刑資193号397頁

タクシー下車後に再度同車に乗車して所携の匕首でタクシー運転手を刺殺、金品を強取。タクシー下車後に殺害を決意して実行。結婚相手の雇主が結婚に反対したため破談となったことから雇主の殺傷目的で匕首を携行。犯行当時23歳。被告人の母が遺族に送金。

【1c-30s-48】 最判昭39年 4月2日刑資193号461頁

父方祖父の妹に借財を拒否されたことから財布を無理矢理奪おうとしたが、大声で助けを求められたため、タオル等で絞殺、金員を強取。他に強盗未遂。借財を求めて拒否された場合には強取しようとする強盗の計画性。窃盗等による少年院送致の前歴3度、恐喝による試験観察、窃盗等による懲役前科2犯。犯行当時23歳。改悛の情なし。

【1c-30s-49】 最判昭39年12月25日裁判集刑153号987頁

被告人2名に死刑。タクシー運転手を所携の革製バンドで絞頸して金品を強取、さらに同人を絞頸して失神させ、肥溜内に頭から投入して殺害、さらに金品を強取、自動車を奪って逃走。殺害方法等を謀議する周到的な殺害の計画性。共犯、犯情に差なし、相被告人の少年は無期懲役。当初はアベック強盗を計画、強殺後もさらなる強盗を計画。一方の被告人は、強盗致傷による少年院送致の前歴、窃盗等による懲役前科3犯。犯行当時24歳と25歳。一方の被告人は博徒。両名とも恵まれない生育環境、家族関係。両名とも悔悟の情。

(d) 性的目的

【1d-30s-1】 最判昭33年 6月24日刑集12巻10号2301頁

姦淫した上で金品を強取しようと、通行中の女性を絞頸していったん失神させたものの逃げられそうになったため、絞頸して再度失神させ姦淫しようとするも未遂、犯行の発覚を恐れて絞殺。周到的計画、雨中2時間待ち伏せ。窃盗による少年院送致の前歴、強盗強姦未遂等による懲役前科5犯。逃亡後も非行。犯行当時24歳。社会的不安と憤激は甚大。警察官の職務質問に対し自ら進んで犯行を申告するも、反省悔悟の情なし。

【1d-30s-2】 最判昭35年 9月22日刑資197号283頁

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

通りがかりの女性に性交を求めたところ逃げられたため、両手で絞頸、強姦、犯行の発覚を免れるため、胸部を土足で踏みつけて殺害（同女に対する強盗については認定せず、別の女性に対する強姦致傷については被告人と犯人の同一性に疑いがあるとして無罪、妓廊従業員に対する傷害についても無罪）。元警察官。犯行当時23歳。

【1d-30s-3】 最判昭35年12月15日刑資197号271頁《静岡地判平元年1月31日判時1316号21頁により再審無罪（確定）》

姦淫目的で6歳女児を誘拐して姦淫、抵抗されたため、石で強打した上、両手で絞頸して殺害。計画性（但し、計画性を窺わせる事情の記載なく、何についての計画性かも不明）。窃盗で再三服役。社会的影響。軽度の精神薄弱、精神分裂病の遺伝的負因、服役中に精神異常のため執行停止、別の服役中に精神異常により精神分裂病の疑いも電気衝撃療法により寛解。否認、弁解。犯行当時24歳。

【1d-30s-4】 最判昭36年7月11日刑資197号397頁

通行中の女性を強姦、悲鳴を上げられたため、両手で絞殺、電線を焼くのと同じ方法で遺体を焼いて損壊。他に傷害4件、窃盗5件（うち確定判決前の1件について死刑とは別に懲役1年）。窃盗等による懲役前科2犯。恵まれない家庭環境。

(e) 愛憎ほか

【1e-30s-1】 最判昭38年6月25日刑資193号314頁《第一審無期懲役》

2日間何も食べておらず空腹に耐えかねて神社の別当に食事を求めたが拒絶されたため、所携の六角棒で強打、止めを刺すため六角棒で菜切包丁の峯の部分を押付けて頭蓋骨を突き破って脳実質に達する切創を与えて殺害、金品を強取。他に現住建造物放火未遂2件及び窃盗2件（全て確定判決前のもので死刑とは別に懲役3年）。窃盗による保護観察の前歴、脅迫等による罰金前科2犯。知能境界級、場当たりの行動をしやすく、爆発的行動に出る傾向。遺族が必ずしも宥恕せず。悔悟の情。第一審は、(1) 知能境界級で、場当たりの行動をしやすく、爆発的行動に出る傾向があり、被告人としてはやむを得ない行動であること、(2) 当初から殺害の意図を有しているわけではなかったこと、(3) 被害者が食物を所持しながら被告人の要求を拒絶したことにより極度の飢餓状態にあった被告人が凶暴な衝動に駆られたのもやむを得ないこと等を指摘し、無期懲役を言渡した。控訴審は、(a) 飢えるに至ったのは自業自得であること、(b) 殺害方法が稀に見る残虐なものであること、(c) 犯罪的性格が次第に悪

質になっていること、(d) 知能境界級であるものの、各犯行の際には冷静かつ合理的に行動していること、(e) (計画性を窺わせる認定はなされていないが) 計画的犯行で周囲の状況や利害得失を冷静に判断して行動していること、(f) 被害者に何ら咎めるべき点がないこと等を指摘し、死刑を言渡した。

【1e-30s-2】 最判昭39年2月7日刑資193号472頁

母が営む漬物店の借金が増えたにもかかわらず、借金の整理等を行わずに逆に嫌みを言われたことから多量の睡眠薬を飲ませたものの、同女が死に至らないことから同女を両手で絞殺、遺体の両足を鋸等で切断して損壊、遺棄。殺害の計画性。同女の体調を悪化させる目的で適量以上の睡眠薬を服用させたことも。強盗殺人等による前科2犯。反省悔悟するも本件の一端が母にあったかの如き口吻。

(f) 拳銃奪取目的

なし。

(g) 政治的目的

なし。

(x) その他

【1x-30s-1】 最判昭38年3月28日刑資193号237頁

看守から金品を強取して受刑中の刑務所から逃走するため、看守を欺いて構外に誘い出し、所携の鉄製バールで看守を乱打、唸り声が聞こえるのを恐れて殺害を決意し、両手で絞頸する等した上で金品を強取した後に殺害。加重逃走と強盗を共謀、鉄製バールを準備する綿密な加重逃走と強盗の計画性。逃走後の犯罪なし。共犯、共犯者を誘因、首謀者、常に主導的地位、共犯者は無期懲役。窃盗等による懲役前科4犯。構外作業中にシンナー吸引。犯行当時22歳。遺族は極刑希望。

【1x-30s-2】 最判昭38年9月5日裁判集刑148号41頁

侵入窃盗の際に家人女性に顔を見られたことから、いったん帰宅した後に、家屋を破壊するとともに家人らを殺害しようと決意し、被害者宅でダイナマイトを爆発させて現住建造物を損壊し、家人女性の夫を殺害、家人女性、その子及び同人の妻並びにその子の殺害は未遂。他に窃盗7件（うち確定判決前の1件について死刑とは別に懲

最高裁において昭和33年乃至同39年に確定した死刑判決一覧

役1年)、業務上横領。窃盗による懲役前科(執行猶予)。犯行当時25歳。改悛の情なし。

5 被殺者0名の事案

(a) 身代金目的

なし。

(b) 保険金目的

【0b-30s-1】 最判昭36年7月31日刑資197号412頁《第一審無期懲役》

生命保険料等の支払が多額な上、子を私立中学に進学させたために経済的に困窮し、保険金を得ようと、自己の居住する集合住宅に放火して自己の居室がある棟とその隣の棟を全焼させ、保険金の支払として振出された小切手を騙取(この火事により、8名が死亡したものの8名に対する殺人は公訴事実に含まれていない)。他に集合住宅の自己の居室に放火して同住宅の一部を焼損した現住建造物放火。放火及び詐欺の計画性。責任転嫁と犯跡隠蔽のため、焼死者の名を用いて偽手紙を作成して発送し焼死者による怨恨に基づく放火であるよう工作。脳の気質的障害。自白、改悛の情。第一審は、(1) 焼死者の発生が被告人の予見の範囲外であること、(2) 計画的大量殺人と同視できないこと、(3) 脳の気質障害と関係していること等を指摘して無期懲役を言渡した。控訴審は、(a) ひとたび火災となれば悲惨な結果が生じるに至ることが予见到に難くないこと、(b) 被害を最小限度に食い止める気があれば居住者に火災の発生を告げることができたにもかかわらずその措置を講じなかったこと、(c) 放火の責任を焼死者に転嫁しようとしたこと、(d) 火災保険金を騙取し、住宅を購入していること、(e) 被害が巨大であること、(f) 社会公共の安全を脅かした程度が甚大であること等を指摘し、死刑を言渡した。

(c) その他の利欲目的

なし。

(d) 性的目的

なし。

(e) 愛憎ほか

なし。

(f) 拳銃奪取目的

なし。

(g) 政治的目的

なし。

(x) その他

なし。